

## 8-4-13 砂防・急傾斜専門委員会

### 1. 主な活動の記録

#### (1) 砂防・急傾斜専門委員会の開催

専門委員会開催回数：10回

令和4年4月から翌年1月まで月1回のペースで専門委員会を開催し、本年度検討項目の審議及び技術部会等への報告・連絡等を行った。

#### (2) 活動の目的

近年、気候変動に伴う集中豪雨の増加や地震の頻発等により、土石流・がけ崩れ・地すべり等の土砂災害が全国的に多発している。令和4年8月3日からの大雨では東北地方を中心に、また、台風第15号では静岡県を中心に多数の土砂災害が発生した。令和4年の土砂災害発生件数は、42道府県において795件（令和5年3月3日現在）に上り、死者4名、負傷者8名、家屋被害284戸の被害が生じている。

当専門委員会では、これら頻発する土砂災害に対する取り組みや砂防業務の課題等を整理検討するとともに、砂防技術の向上を目指し委員会活動を実施した。

#### (3) 令和4年度の活動

##### a) 当専門委員会の活動状況パンフレット（令和3年度版）を作成した（A3版表裏1枚）。

会員及び国土交通省・都道府県砂防部局等に配布し、当専門委員会の活動の周知を図った。

##### b) 国土交通省砂防部保全課、砂防計画課幹部との意見交換会を10月6日に実施し、砂防関係業務の現状と課題について意見交換を行った。

##### c) 第15回砂防現地見学会は、新型コロナウイルス感染症対策が十分に確保できないことから中止とした。

##### d) 令和3年度業務等に関するエラー事例の収集・分析資料を作成し、取りまとめを行った。品質セミナーは、ビデオ配信で実施した。また、東京都のエラー講習会に講師を派遣した。

##### e) 第13回砂防講習会は、コロナ感染症対策のため会場参加者を会議室定員の50%に限定するとともにWeb配信（リアルタイム）を行うハ

イブリッド方式にて行った。講師として、国土交通省砂防部保全課 城ヶ崎 正人課長に「いのちと暮らしを守る砂防」、中電技術コンサルタント（株）先進技術センター 荒木 義則センター長に「UAVの砂防分野への活用と今後の展望」、鹿島建設（株）機械部生産機械技術グループ 宮内 良和グループ長に「国内初となる災害現場における砂防堰堤自動化施工」、気象庁大気海洋部気象リスク対策課 五十嵐 陽子地域気象防災推進官に「大雨に関する防災気象情報」を講演いただいた。

##### f) 砂防業務改善について、これまで作成してきた「Excel版照査要領」を建コン協ホームページに公開し、広く会員が活用できるようにした。また、「歩掛積算体系、共通仕様書の改定要望」について国土交通省砂防部に説明を行い、課題認識の共有を図った。

##### g) 若手技術者交流会については、10月12日に広島大学、10月13日に日本大学、10月21日に立命館大学において学生説明会を開催し、広島大学では42名、日本大学では208名、立命館大学では97名の学生参加があった。

##### h) その他、「ブロック積砂防堰堤活用事例集」の取りまとめ、原稿作成を進めた。

### 2. 次年度の活動について

令和5年度は、砂防部との意見交換会等を踏まえ業務の諸課題を整理し、それらの解決策を提案する。

- ・第15回砂防現地見学会実施を検討
- ・品質セミナーにおいて、エラー事例の収集・分析、講師派遣を実施
- ・第14回砂防講習会を開催
- ・国土交通省砂防部との意見交換会を開催
- ・令和4年度版活動パンフレットを作成し、会員及び関係機関に配布
- ・若手技術者育成のための砂防若手技術者との交流会や学生説明会を実施

（砂防・急傾斜専門委員会委員長 後藤 宏二）